

幕屋の召会生活から宮の召会生活へと、主と共に前進して

生ける神の宮としてのキリストのからだを建造する

聖書：マタイ 12:3-4, 42. ヨハネ 14:21, 23.

ローマ 8:28-29. 詩 27:4. 36:8-9. 43:4. 84:4-5

- I. わたしたちの内側の主は、魂の荒野にある幕屋の召会生活から、わたしたちの霊にある良き地の実際であるキリスト（すべてを含む霊）を伴う宮の召会生活へと前進することを切望しています——ヘブル 6:1 前半. ヨシユア 3:14-17. 申 8:8. エペソ 2:21-22. コロサイ 1:12. 2:6-7。
- II. 幕屋と宮は、召会の二つの面を予表しています：
- A. 列王紀上第 8 章 1 節から 11 節は、幕屋と宮が合併されたことを見せています。幕屋は可動式の前身であって荒野の行程を行きましたが、宮は予表における神の建造の究極的完成でした。
- B. 幕屋の拡大としての宮は、召会が強化され安定することを表徴しており、宮の中の器具が更新され拡大したことは、聖徒たちのキリストの経験が更新され拡大することを表徴しています。宮の寸法と宮の中の至聖所の寸法は、幕屋のそれらの寸法の二倍でした。さらに、箱は例外でしたが、器具と調度品の大きさと数は、彼の拡大された表現のために大いに拡大しました——列王上 6:2, 20. 歴代下 4:1-8. 参照、出 26:3, 16, 18, 22-24, 33。
- C. 幕屋が予表しているのは、地上にある神の召会、あるいは各地方にある神の召会です。宮が表徴しているのは、キリストのからだの実際としての召会です。諸地方召会は尊い手続きであって、わたしたちを神のエコノミーの栄光の目標であるからだの実際へともたらしめます——エペソ 1:22-23. 参照、啓 21:10-11。
- D. 唯一の務めは神の唯一の証しのためです。神の唯一の証し、すなわち、キリストのからだの実際は、諸地方召会において実際化されます——出 25:22. 38:21. 啓 1:2, 9. 参照、エペソ 4:4. ヨハネ 16:13。
- E. I コリント第 12 章で描写されているからだは、一つの地方召会が持つべき証しであり、それはからだの証しです。今日の地方召会は、キリストのからだの実際を表現する証しでなければなりません——I コリント 12:14-18, 20。
- F. 召会は一の証しのために存在しています。わたしたちが「地方召会」に言及するとき、わたしたちの強調点は召会にあるのであって、「地方」にあるではありません。諸召会が所有している命は一の命です——ヨハネ 17:11, 21, 23. 啓 1:10-12。
- G. キリストのからだの実際の証しは、神の最終の回復です。すなわち、神の永遠のエコノミーの回復であって、それはキリストがわたしたちのすべてであることの回復、キリストのからだの一回復、キリストのからだのすべての肢体が機能することの回復です——I テモテ 1:3-6. 6:3-5. ヘブル 13:9. エペソ 1:17. 3:2, 8-11, 16-21. 4:1-6, 16。

Ⅲ. ヨハネによる福音書は、キリストが生ける神の宮としての召会を建造するための命であることについての福音です。この建造の働きが遂行されるのは、わたしたちが十字架につけられ復活したキリストを命の木として経験し、享受することを通してです——啓 2:4-7. I ペテロ 2:24. ヨハネ 11:25. 6:57, 63. II コリント 6:16 :

- A. 命の原則は、死を命に変えることであり（ヨハネ 2:1-11）、命の目的は、神の家（神の宮）としての召会を建造することです（12-22 節）。こういうわけで、主は、「この宮を壊しなさい。そうすれば、わたしは三日のうちにそれを起こす」と宣言されました（19 節）。
- B. 彼の死、すなわち彼の物質の体が十字架上で壊されることを通して、彼はわたしたちの違反と罪科を負い、わたしたちを贖い、義としました。そして彼の死はわたしたちの病のいやしのためでした——イザヤ 53:4-6. ローマ 3:23-26. I ペテロ 2:24。
- C. 主の物質の体が壊されることはまた、死の権能を持つ悪魔を滅ぼすことでした。彼が十字架で死なれた時、旧創造、古い人、肉、サタン、罪、もろもろの罪、この世は十字架につけられました。こういうわけで、神の目に、キリストが十字架につけられた後、全宇宙は一掃されました——ヘブル 2:14. ローマ 6:6. ガラテヤ 2:20. 5:24. ヨハネ 1:29. 3:14. 6:70-71. 12:31. マタイ 16:23. I コリント 15:3。
- D. 主の物質の体が壊されることと、彼が三日目に復活させられたことはまた、彼が一粒の麦として死ぬことであり、復活して神の神聖な命を神の神聖な火として解き放ち、彼の多くの信者たちの中へと分与して、彼の多くの信者たちを神の複製とすることでした——ヨハネ 12:24. ルカ 12:49-51。
- E. キリストの死と復活を通して、彼の物質の体は増し加わって、彼の団体的で奥義的なからだとなりました。このからだは、神の宇宙的な宮であり、生ける神の家としての召会です——I コリント 3:16-17. I テモテ 3:15. I ペテロ 2:5. エペソ 2:21-22。
- F. 多くの住まいとは、神の宮であるキリストのからだの多くの肢体です——ヨハネ 14:2, 23. ローマ 12:5. I コリント 3:16-17。
- G. わたしたちは命を解き放つキリストの死によって生み出された多くの麦粒として、また命を分与するキリストの復活によって生み出されたキリストの奥義的なからだの多くの住まいとして、彼を極みまで愛し、わたしたちの土の器の中の宝の力によって、十字架につけられた生活をし、復活の命を現す者でなければなりません——ヨハネ 14:21, 23. ローマ 8:28-29. II コリント 4:7-18. 12:7-9。

Ⅳ. ダビデとソロモンは、神の建造のための二つの面におけるキリストを予表しています :

- A. ダビデが予表するのは、肉体と成って、神・人の生活をし、苦難を受けて死に至るまで（飼葉桶から十字架まで）のキリストです——マタイ 12:3-4. 22:41-46。
- B. ソロモンが予表するのは、栄光の中にある復活のキリストが、命を与える霊とし

てわたしたちの中で（彼の御座に着くことと、二度目に来臨して地上の彼の王国を治めることを含む）、神の知恵の言葉を語って、神の宮としての召会を建造することです——マタイ 12:42. 歴代下 1:10. I コリント 1:24, 30. 12:8。

- C. 神は、「証しをして言われました、『わたしはエッサイの子ダビデを見いだした。彼はわたしの心にかなう者で、わたしの意志をことごとく行なうであろう』（使徒 13:22）。ダビデは、「神のみこころによって彼自身の世代に仕え……ました」（36節）。彼は神の心にかなう人でした（サムエル上 13:14）。なぜなら、ソロモンが証ししたように、「エホバ・イスラエルの神の御名のために家を建てることは、わたしの父ダビデの心にあった」からです（列王上 8:17-20. 参照、エペソ 1:5, 9. I コリント 12:12-27 ——参照、13節のフットノート2）。
- D. ダビデは若い時から苦難を受けました。しかし、彼は苦難を通して材料を用意し、宮を建造するための正しい立場を獲得し、建造者ソロモンとすべての助け手を用意しました——歴代上 21:18-30. 歴代下 3:1. 歴代上 28:9-11, 20-21。
- E. ダビデが神の宮を建造するために、材料をおびたたく用意したことは、キリストが彼の計り知れない豊富をもって、神の召会を建造するために備えることを予表します——歴代上 18:7-11. 22:2-5, 14-16 前半. 28:2. 29:2-9. 参照、エペソ 3:8-10。
- F. ダビデが困難の中で（歴代上 22:1, 14）、試練の中で、彼の戦いの勝利の中で用意したことは、キリストが神の召会を建造するために、試練の中で、彼がサタンとその暗やみの勢力と戦う生活における勝利の中で（マタイ 4:4, 7, 10）、豊富に備えることを予表します。
- G. ダビデに与えられた宮の様式は、「霊によって感動されて彼が持っていたすべての様式」でした（歴代上 28:12）。「ダビデは言った、『このすべて、すなわち様式の詳細すべてを、エホバは明らかにしておられる。それは、わたしの上で彼の御手によって書かれた物である』（19節. 参照、II コリント 3:3）。ソロモンが建てた宮は、この様式にしたがっていました（歴代上 28:11）。
- H. ダビデが神に対するイスラエルの奉仕の順序を案配することは、神の宮と関係があり（歴代上 6:31-48. 第23章—第26章）、新約において、その霊が召会の奉仕の順序を案配することを予表します（I コリント 12:4-27）。それはさらに、からだのかしらとして、キリストが彼のからだの中で順序を設け、すべての肢体に保持させたことを予表します（I コリント 12:18. 14:40）。
- I. 召会の青写真は、復活の霊、すなわち、すべてを含む、命を与える、複合の、内住する霊です。わたしたちがわたしたちの霊の中の復活の霊の中で生きるとき、ソロモンがダビデの設計にしたがって（キリストの神・人の生活、死、復活のすべての成分をもって）宮を建てたことの実際が、わたしたちの内側で成就されます——ヨハネ 2:19. ピリピ 1:19. エペソ 1:17. 2:22. 3:5, 16. 4:23. 5:18. 6:18。
- J. ソロモンの名は、「平安」を意味します。これは、召会が「安息の人」としてのキリストによって、平安の中で、何の騒音もなく、建造されることを意味します——歴

代上 22:9. 使徒 9:31. エペソ 4:29-32 :

1. 宮の建造に用いられるあらゆる石は、原則において、すでに山で切られ処理（対処）されていました。ですから、槌や斧や鉄の道具の音は聞こえず、宮は静かに建てられました——列王上 5:15-18. 6:7。
  2. もし主によって対処されていない兄弟（ずっと話し続け、良い聞き手でなく、それゆえ更新されていない思いを持っている人）が長老になるなら、召会は槌や斧や鉄の道具の騒音で満たされるでしょう。いくつかの「騒音」は、特定の聖徒たちが互いの祈りを打ち消し合う祈りをすることによって、互いに争うことであるかもしれません——参照、イザヤ 50:4-5. エペソ 4:23。
  3. 召会の中で、もしわたしたちが他の人の批判、裁き、議論、反対を聞くなら、わたしたちは至聖所の中へと退くべきです。すなわち、わたしたちの霊の中へと退き、わたしたちの霊に戻るべきです。宮は静けさの中で建造されます——ガラテヤ 6:17-18. イザヤ 30:15 前半。
  4. 契約の箱が納められた後、ダビデがエホバの家の歌の奉仕に立てた人たちは、ソロモンがエルサレムにエホバの家を建造するまで、集会の天幕の前で歌をもって務めをしました——歴代上 6:31-32。
- K. わたしたちは「王と共に住み、同労して」、彼を十字架につけられ復活したキリストとして享受して、彼ご自身はわたしたちの中へと建造され、わたしたちは成就されて神の家としての召会の中の柱となります——補充本詩歌 801 番. 歴代上 4:23. 列王上 7:17, 21. 啓 3:12。
- L. わたしたちはすべてを含むキリストを、復活の力として、また手順を経た三一の神の復活し命を与える霊として享受することによって（真のさらに大いなるソロモンとしてのキリストを指す）、キリストの苦難の交わりにあずかり、祈りの人としての彼の神・人の生活をもって、彼の死に同形化されることができ（真のさらに大いなるダビデとしてのキリストを指す）、これは彼のからだ（真のさらに大いなる宮）のためです——ピリピ 3:10. ローマ 8:11. マタイ 12:3-4, 42. ヨハネ 2:19-22. II コリント 6:16。
- V. 生ける神の宮としての召会を建造するための神の考えと道は、わたしたちの考えと道よりも高いのです。わたしたちは自分の道と考えを捨て、エホバ・わたしたちの神に立ち返って、生ける神の宮としての召会の中で彼を享受する道を取る必要があります——創 2:9. ヨハネ 6:35, 57, 63. イザヤ 55:6-13. 57:20. ヨハネ 1:14. 2:19. 3:34. 17:17. エペソ 5:26. II コリント 3:15-18. 6:16. ローマ 8:28-29. 啓 22:1-2 :
- A. わたしたちは神の子供たちとして、観念を変え、神の願いはご自身をわたしたちに与えて、わたしたちの享受とならせることであることを認識する必要があります——詩 36:8-9. 16:11. 19:8. 27:6. 42:4-5. 48:2. 63:7. 66:1-2. 81:1. 89:15-18. 95:1-2. 100:1-2. 126:1-6. ネヘミヤ 8:10. I ヨハネ 1:3-4 :
1. 実を結ぶことは、神を享受することです——ヨハネ 15:7-11。

2. 祈ることは、神を享受することです——哀 3:55-56. 詩歌 210 番。
  3. 言葉を供給することは、神を享受することです——ヨハネ 6:57, 63. 7:37-39.  
I コリント 15:10. II コリント 3:1-6, 18. 2:17. 13:3. エペソ 3:2. I ペテロ 4:10-11.  
エレミヤ 15:16. エゼキエル 3:1-4. イザヤ 55:8-11。
  4. 福音を宣べ伝えることは、神を享受することです——ヨハネ 4:10, 13-14, 31-34。
  5. 神の導きを受けることは、神を享受することです——出 33:14。
- B. クリスマン生活をして勝利者となる秘訣は、わたしたちが命の木としての神を享受する道を取ることです。神には、わたしたちに彼のために何かを行なわせる意図はありません。彼の唯一の願いは、ご自身を食物としてわたしたちに与えて、わたしたちの享受とならせることです——創 2:9. 啓 2:7。
  - C. わたしたちがエホバの良きことを味わい、そして見るのは (詩 34:8)、神の宮である神の家の中で、すなわち、キリストの中で (ヨハネ 2:19-22)、召会の中で (I テモテ 3:15. I コリント 3:16-17. II コリント 6:16)、わたしたちの霊の中で (エペソ 2:22)、究極的には新エルサレムの中です (啓 21:22)。
  - D. わたしたちは神の家 (宮) の住まいと、彼の栄光が住み、とどまり、現される場所とを愛すべきです——詩 26:8. 84:1. 29:9 後半. エペソ 3:20-21 前半。
  - E. 「わたしは一つの事をエホバに願いました. わたしはそれだけを求めます. わたしの命の日の限り、エホバの家に住んで、エホバの麗しさを見つめ、彼の宮で尋ね求めることを」 (詩 27:4)。エホバの家は、拡大された、宇宙的な、神性と人性の合併であり、御父の現れ、満足、安息のためです (ヨハネ 14:2, 20, 23)。
  - F. キリストの中で、召会の中で、わたしたちの霊の中で、わたしたちは「定住する神」を、わたしたちを満ち足らせる彼の家の脂肪分として、またわたしたちの渇きをいやす彼の楽しみの中として、またわたしたちを養い照らす命と光との源として享受します——詩 36:8-9。
  - G. 「わたしは神の祭壇に、わたしの歓喜と喜びである神に行きます. 神よ、わが神よ、わたしは豎琴をもってあなたをほめたたえます」——詩 43:4。
  - H. 神の宮である神の家の中で、わたしたちは神の御顔の表情 (神の臨在) の救いを享受します (詩 42:5)。それは、彼がわたしたちの顔の表情の救いとなることができるためです (11 節)。
- VI. 「幸いです、あなたの家に住む者たちは. 彼らはなおもあなたを賛美しています. セラ. 幸いです、その力があなたにあり、その心にシオンへの大路がある人は」——詩 84:4-5 :
- A. 「わたしは……永遠に限りなく、あなたの御名を賛美します」——詩 145:2 後半。
  - B. 「わたしは生きている限り、エホバを賛美し、なおも長らえる限り、わたしの神に詩篇を歌う」——詩 146:2。
  - C. 「あなたは聖であって、イスラエルの賛美の上に座しておられます」——詩 22:3。
  - D. 「彼を通して、絶えず賛美のいけにえ、すなわち、御名を言い表す唇の実を、神に

ささげようではありませんか」——へブル 13:15. ピリピ° 2:11。

© 2022 *Living Stream Ministry*